

介護のプロへの応援誌

# ふれあいケア ①

Jan.2017

特集

## だから、介護の仕事を 続けたい!

ふれあい訪問

特別養護老人ホーム  
ビハーラ十条





# 現場で育てる 「ゆとりの介護」

笠井 嘉子

石川県・社会福祉法人北伸福祉会 デイサービスセンター 朱鷺の苑 三 センター長

日曜日の午後。「そろそろ始まります！」の職員の声で、フロア内が活気づきます。

「今日はおやつ作りですよ」



私たちの施設では、毎週日曜日に、職員が企画・手づくりの「日曜行事」を行っています。ミニクッキングやドライブ、またご利用者が出演するファッションショーなど、ご利用者の積極的な活動を促すような「参加型」の行事を開催し、好評を得ています。

私たちの地域では職員配置の問題などもあり、日曜日は休業するデイサービスセンターが多い実情があります。そういった事情も踏まえ、約5年前に

手探りでこの日曜行事をスタートしました。当初のご利用者は少数でしたが、人が人呼び、今では当施設の「名物」となっています。たくさんの方が笑顔で行事を楽しんでいる姿を見ると、続けてよかったですと感じます。

## 職員に生まれた一体感

当施設は平成23年に開設され、今年で6年目を迎えました。元々は当法人の特養に併設されていたデイサービスが、分離・移転して開設された施設です。職員は法人内の4施設から、中堅やベテランメンバーが集まりました。私自身も法人内で別のデイサービスの

施設長を務めていたため、オープンの準備期間が十分にとれませんでした。職員のほとんどが経験者でしたので、多少安心していました。しかし、それもつかの間。同じ法人の職員といえども、施設ごとの考え方ややり方に違いがあり、職員同士が各自の思いを主張し合ってしまったのです。動きはバラバラでまとまらず、互いに衝突することさえありました。

このままでは日常の業務にも支障を来すのではないかと、不安と焦りのなか、「何とか職員のチームワークを育てたい」という一心で考えついたのが日曜行事でした。365日年中無休型の営業を生かしながら、職員とご利用者が一つになって何かに取り組むことができなかつたかと思えました。企画は職員が毎週もち回りで担当することにし、「見て楽しむ行事ではなく、ご利用者が実際に体を動かす『参加型』の行事を考えてほしい」とだけ指示しました。

最初は手軽で簡単なおやつ作りが多かったものの、次第に職員間で企画案

を相談し合ったり、助け合ったりするようになりました。さらに、行事のたびに職員が告知のポスターを作成してPRするなど、積極的にかかわるようになってきました。カラオケ愛好家のご利用者で結成する「彦三〜ず」の発表会も兼ねた訪問活動やファッションショーなど、今では定番となっている行事も増え、ご利用者も「次回は何するがや？」と楽しみにされています。

企画段階では私はほとんど口を挟みません。職員に自由に考えてもらうことで、それぞれの個性が引き出され、特技などが生かされています。私の想像をはるかに超えて、職員同士のコミュニケーションが増え、日曜行事以外の日常業務についても連携が深まり、現場にポジティブな一体感が醸成されました。

## 現場主義を第一に

私は「現場主義」を第一に、自らが現場に入ることを実践しています。日

曜行事の日は、私自身も輪に加わりまですし、日常の業務においても、ヘッドライヤーかけやコップ洗い、食事の準備や後片づけといった「雑用」を含めて率先してかかわるようにしています。このように、ご利用者や職員と直接かかわることで、現場の声に気づくことができます。そのうえで、職員一人ひとりの気持ちに寄り添うことが、自身の役割だと思っています。

私は介護の現場に立つ前、子育てと仕事の両立で悩み、つらい思いをした時期がありました。その時は、職場でも笑顔でいることができず、周囲を気にするあまり、体調を崩しました。そんな経験から、職員に気持ちよく働いてもらえる職場づくりの大切さを痛感しています。仕事の範囲内にとどまらず、職員の心身の健康を見守り、さまざまな悩みや相談ごとに対応できる上司であらねばと気を引き締めています。

## 「ゆとりの介護」をめざして

介護技術の向上はもちろんですが、技術だけが優れていても立派な介護職員とはいえません。また、遠目に職員の様子を見て指示するのでは、指示を受けないと動けない職員を育ててしまうことにつながります。職員には日々の業務のなかで、小さな変化に自ら気づき、成長してほしいと願っています。私自身も現場主義を貫きながら、さまざまな「気づき」を大切に、これからも共に成長し続けたいと思っています。

介護の現場はどこも人手不足。しかし、日々の慌ただしさに流されてしまえば、質の良いケアにはつながりません。多忙ななかにも、いろいろな意味で「ゆとりの介護」が求められているのではないのでしょうか。

詰め込み型の促成栽培では、良き介護者は育ちません。職員教育にも「ゆとり」をもち、現場で寄り添いながら自然と笑顔が生まれるような職場のあり方を模索しながら、今後もがんばっていきます。